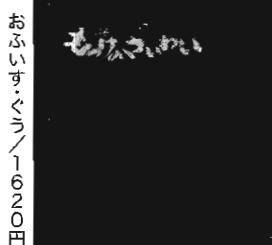


# 読書万巻

## 「もつけのさいわい」

評者 立川談四楼 落語家

### 優しく豊かな津軽弁の世界



おふいすぐう／1620円

著者の芸名・伊奈かつべいが、そもそも田舎つべのダジャレであり、その名を聞いて咄嗟に浮かぶのはアイデンティティとも言うべき津軽弁である。

弘前生まれの演劇青年が陸奥新報社を経て青森放送は美術部

に入り、やがてテレビやラジオのディレクターとして数々の番組を手がける。詩集を出したのをきっかけにラジオパーソナリティとなり、一躍東北の人気者に。

正方形という変わった形の本のデイレクターとして数々の番組を手がける。詩集を出したのをきっかけにラジオパーソナリティとなり、一躍東北の人気者に。

人々の姿までが見えてくる。本文は諧謔に満ちている。川など数々のCDを出しているが、著作活動も盛んで、本書はその新刊というわけだ。

に著者がいるようで、彼の地の景色や、楽し気に会話を交わす人々の姿までが見えてくる。本文は諧謔に満ちている。川など数々のCDを出しているが、著作活動も盛んで、本書はその新刊というわけだ。

柳、狂歌、地図と何でもありだ。一読をお勧めしようにも版元は遠く青森で、東北の方以外は入手が難しいのだ。

アマゾンという手もあるが、最良の方法が、著者のライブショーに出かければ解決する。幸い著者は全国を飛び歩いていて、その口��이には必ず本書があるはずなのだ。かつて私がそこでCDを入手したように。

本書に関しては、ご一読との言葉はふさわしくないと思う。目で書き文字を、そして津軽を味わってもらいたい。

### 伊奈かつべい

いな・かつべい  
1947年、青森県生まれ。青森短期大学卒業。青森放送詩書勤務時代の1974年、処女詩集『消しゴムで書いた落書き』を発表。以降、マルチタレントとして活躍。著書に『旅の空うわの空』『げんせん書け流し』など多数。

ようになるのだが、退職後現在もマルチタレントとして幅広く活躍している。売りはやはり津軽弁で、朗読や漫談に客席

声にして読むと、まるでそこ

である。いや何よりその特徴はすべて手書きであるということだ。表紙、本文、いわゆる奥付と言われるところまで手書きなのだ。広く流布すべき本なので、

正確にはオール手書きを印刷したものということになるのだが、それでもマルチタレントとして幅広く活躍している。売りはやはり津軽弁で、朗読や漫談に客席

声にして読むと、まるでそこ

は、これは。へせまい長屋も楽しい我が家へ坊や縁故だ入社しなへ棟梁の傷は一昨年の五月五日の出入りの日……。

ダメか。ダメだろう。本欄は